

「10代を選挙に」知恵比べ

参院選へ各党PR

駅前で街頭演説経験 ■ 議員と政策づくり

夏の参院選が近づいてきた。新たに選挙権を得る18歳、19歳の関心を引くため、与野党は様々な戦略を打ち出している。激戦が見込まれる大阪選挙区（改選数4）では、立候補予定者らの取り組みが熱を帯びている。

「もっと議員の給与を削って教育無償化の財源を捻出すべきだ」

大阪市内で22日、おおさか維新の会が開いた「学生マニフェスト会議」。インターネットでの募集に応じた10〜20代の27人が党所属議員らと「教育の完全無償化」などのテーマで議論した。一部の参加者はJR大阪駅前

前で街頭演説も経験した。若者の政治意識を高めることに狙いを絞り、立候補予定の新顔浅田均氏(65)は参加しなかった。企画し

選挙権年齢の引き下げ

昨年6月に改正公職選挙法が成立し、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられた。今年6月19日に施行され、参院選が国政選挙で初適用となる。新たに有権者になる18歳、19歳は計約240万人で、全有権者の約2%にあたる。



議論したマニフェストを発表する学生ら
11月22日午後、大阪市北区、上田潤撮影

た府議は「思った以上に活発な議論になった」と話す。大阪府以外でも同様のイベントを開く方針という。

自民党府連は学生向けに

「打倒、政治家！」と題したイベントを14日、開いた。学生らはグループごとに「留学費が高い」など日頃の疑問や不満を解決する政策を考えた。6月に18歳の誕生日を迎える男子高校生(17)は「急に政治が身近になった」と参加。小中学校のグラウンドを時間で開放する政策をグループで考え、「勉強になった」と言う。大学生が企画。政党色を消すため、立候補予定の新顔松川るい氏(45)は呼ばなかったが、市議らは「参院選向け政策集に奨学金の話盛り込みたい」とアピール。党本部はマンガ付きのパンフレットを6万部作成。高校生向けの党本部見学ツアーも開いている。

3選に挑む民進党の尾立源幸氏(52)は早々と昨秋、10代の大学生を集めた会合を開催。大学近くの駅で「返済不要の『給付型奨学金』の創設」をうたったピラも配った。党本部は首都圏で10代限定のイベント「民進党ハイスクール」を開いている。

「18歳、はじめての選挙。プロジェクト」を3月に大阪市内で開いたのは公明党。若者がグループに分かれて「政党」を作り政策を立案。再選を目指す石川博崇氏(47)が委員長の党青年委員会、全国の若者の声を集め、首相に届けた。

共産党府委員会は今年7日、新顔渡部結氏(35)も参加した若者向けの集い「Yui Cafe」を開いた。大学生らが「ブラック企業経験したの私だ」などと紙に書き、身近な問題を語り合った。党中央委員会は若者向けの訴えを記した冊子を30万部作った。大阪選挙区では幸福実現新顔の数森圭吾氏(36)も立候補を予定している。